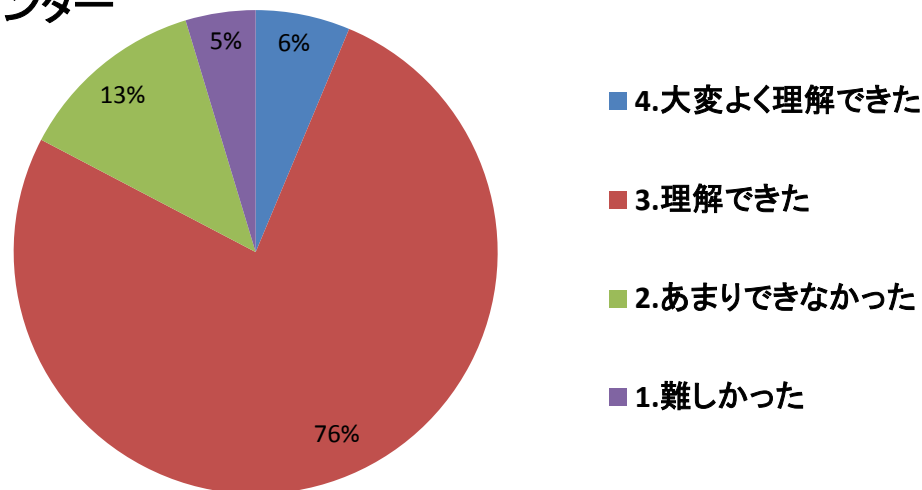


① 院内急変対応チーム

東京ベイ・浦安市川医療センター
センター長
藤谷 茂樹



- 院内急変対応チームの編成が組織全体の協力のもと形成されることで迅速かつ確実な治療提供が可能になりましたそれに関連する、ドクター、ナースのスキルアップにもつながっていることに気づきました。まだまだ深い意味での理解はできませんでしたが、これからの医療には確実に必要とされてくる部門であることを実感しました。(男性 看護師)
- RRT・MET初めて耳にする言葉であり役割の違いを理解するのが難しかった。資料・講義ともわかりやすかった (女性 看護師)
- RRSの目的RRTの守備範囲・エビデンス・4つのコンポーネント・RRSとCode blueの違いを知ることができ今後に生かしていけそうです。(女性 看護師)
- 「thank you for calling」が印象に残りました。(女性 看護師)
- 夜間や週末に患者さんは急変しやすく、判断に悩む事がよくある。RRSの仕組みは安全な医療を行なうためには、効果的な仕組みであると思いました。(女性 看護師)
- 講義を通じ、当院でもRRSの必要性を感じた。(男性 放射線技師)
- 院内心停止を防止するために、気づきを重要視し、RRSのようなシステムを構築し、早い段階での対応の必要性を感じました。現場では「ちょっと変だけど様子を見ようかな。」という場面も多いですが、放置せず、きめ細かい評価が医療安全として必要であると感じました。(男性 作業療法士)
- 発見が遅れた死亡例を経験したことがあります。早い段階で対応するRRS・RRTについて大変よく理解できました。当院で導入された際はチームへ積極的な参加をしたいと思います。(女性 助産師)